

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

### (1) ユウレイボヤ

ラーバは久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られました (図2)。

### (2) オベリア類(通称:クサ)、キヌマトイガイ

クラゲ、ラーバは見られていません。

### (3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は小湊沖で2.5個体/m<sup>3</sup>見られました。

### (4) マボヤ

ラーバは奥内沖で1.7個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>、川内沖で1.6個体/m<sup>3</sup>、卵は奥内沖で21.7個体/m<sup>3</sup>、小湊沖で7.5個体/m<sup>3</sup>、川内沖で2.3個体/m<sup>3</sup>見られました。

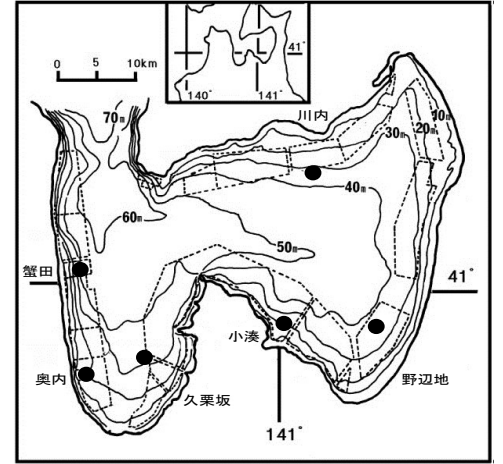


図1 ラーバ調査地点

## 2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が10~13℃台に低下しています。ユウレイボヤは、水温が20℃以下に低下すると産卵し、例年11~12月がラーバの出現ピークになっています。

今回、西湾でラーバがわずかに見られましたが、10月~翌年3月までの累積ラーバ数が10個体/m<sup>3</sup>以下であれば分散済みの籠への今秋の付着は少ないことが予測されます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

マボヤのラーバと卵が見られており、今後付着が進むものと考えられます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		オベリア類	アミクサ小枝
				ラーバ	卵		
蟹田沖	H29.11.21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H29.11.27	0.0	5.8	1.7	21.7	0.0	0.0
久栗坂沖	H29.11.28	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0
小湊沖	H29.11.24	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	2.5
川内沖	H29.11.28	0.0	0.0	1.6	2.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

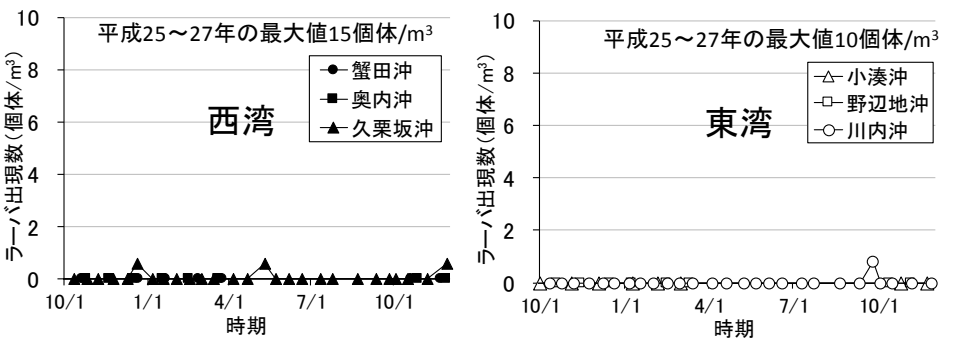


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (平成28年10月~平成29年11月)

## 3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数 (久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数 (蟹田、奥内、久栗坂)、12月~翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ないことが分かりました (図3)。

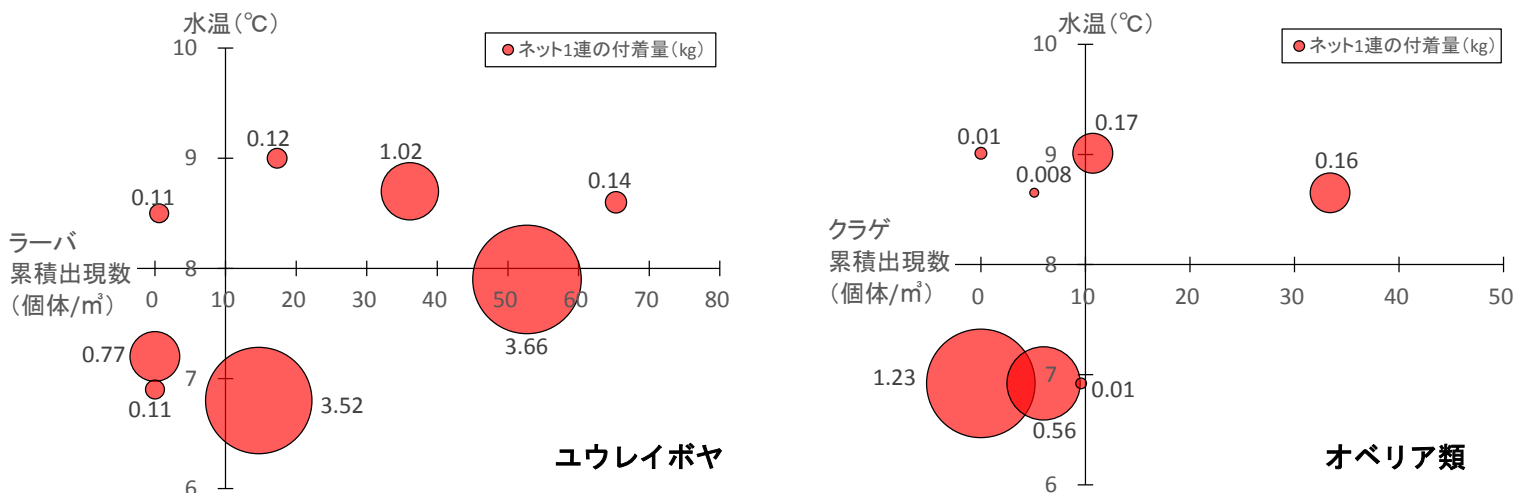


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係 (○印の中心はプロット位置、面積は付着量)

